



# 障害者の ゆたかな未来をめざして



「僕と大好きな人たち」 あかつき共同作業所 山中 五美さん ※紹介が11ページにあります。

## CONTENTS

- ▶ コロナの中でも工夫して 私たち取り組んでいます！ ～自治会活動を中心に～ ..... P3～5
- ▶ 「高齢期の障害者家族の生活問題と社会的支援」⑦ ..... P6～7
- ▶ 障害者の「親なきあと」問題と成年後見制度⑧ ..... P9

2021年8月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3  
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

# 76回目の終戦記念日に想う

理事長 鈴木清寛

今年も8月15日に76回目の終戦記念日を迎えます。ゆたか福祉会においては、これまで「平和であってこそ、障害者の幸せが」と、ゆたか福祉会の職員の行動理念の柱の一つとして「平和」の理念を掲げ、平和行進等のとりくみをすすめてきました。広報誌上においても理事をはじめ役員のみなさん、親の皆さんの体験記などの連載にとりくんできました。

我が国の歴史において、不幸な戦争の歴史は、多くの戦争を体験した関係者が語り書き残しているように、それは一度と繰り返してはならない不幸な体験でした。我が国はあの壮絶な第2次大戦（太平洋戦争）を終えて、「その歴史を再び繰り返してはならない」との強い決意のもと新しく「日本国憲法」を掲げ、新しい国づくりをはじめました。その憲法は、国民主権、人権尊重、平和主義の基本原則のもと、新しい出発を全国民のねがいとした新しい国づくりでした。

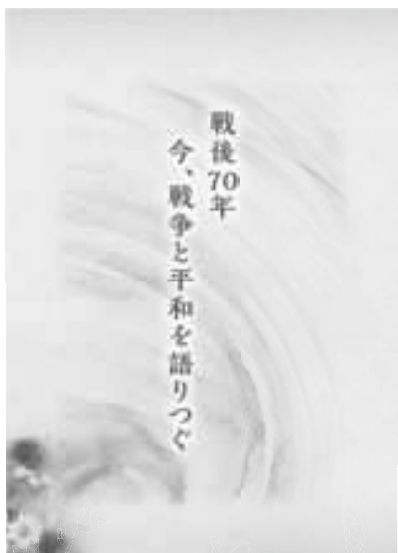
しかし、残念ではありますが、年々と戦争体

験者は少なくなり、こうした我が国の基本的ありかたを若い世代がどう継承していくかは大きな課題となっています。また、残念ながら現政権は、国民の意思に反し、圧倒的な憲法学者の反対をおしきって、2015年9月には、自衛隊の海外派兵、集団的自衛権を行使できる「安保法制」を強行採決し、戦争ができる国づくりをめざしています。

今年1月1日付けの新聞で「立ち上げる未来世代」という見出しで、若手女性活動家7人が紹介されていました。中でもリビアの人権活動家ハジャ・シャリーフさんの「世界中の若者は政治的になるべきだ」という呼びかけが胸に響きました。これらの若い未来世代からの主張にあるように、もっと国民が政治に関心をよせていくことが、これまでになく重要となっています。しかし、残念なことに、政治への無関心がひろがり、国政選挙への投票率は低下し続けています。今日の政治状況は、国民自身がつくってきたとも言えます。

今年も国政選挙の重要な年です。私たちはコロナ禍を体験し、貧富の格差の拡大、気候変動など地球環境の破壊が続く中で、終戦記念日を前に、改めて現政治の在り方を問い直す重要な局面に立っています。

今一度、障害者問題の視座から、我が国の地域と社会の未来の視座から、全関係者が終戦の意味と今後の未来に向かって、現政治の在り方を問い直す機会としましょう。



▶2017年に作成した冊子  
「戦後70年 今、戦争と平和を語りつぐ」

# コロナの中でも工夫して

## 私たちが取り組んでいます！ ～自治会活動を中心に～

### リサイクル港作業所

今年度の事業計画の中で、利用者支援については「自主的な集団づくり（自治会・班活動・代表者会議等）を進め、利用者が主体的に活動に参加できるよう支援の充実を図ります」を掲げました。代表者会議と自治会活動について紹介します。

#### 代表者会議

この会議は2018年度に発生した労災事故をきっかけに、職員のリスクマネジメント委員会（月一回）・安全衛生委員会（隔月）と利用者代表者会議（週一回）が、「安全」をテーマに取り組みを行っています。

コロナ禍でなかなか十分な活動までには至っていませんが、現場改善要求を活発に出せるように、安全パトロールを実施したり、改善のための知識を広げつつ、取り組みについては家族も含め報告していく予定です。

萩原 千秋

#### 自治会活動 （リサイクル港の会）

##### ○誕生日会

現在行われている唯一の自治会行事は、毎月の誕生日会です。誕生日の仲間に1,500円分の図書カード、クオカード、マクドナルドカードの中から好きな物を選んでもらいます。以前は図書カードだけでしたが、仲間の意見で昨年から変更になりました。カードの組み合わせを選ぶ時「何を買おうかな」「何を食べようかな」と嬉しそうに悩まれる姿が印象的です。月200円の自治会活動費のメイン行事です。

誕生日会では、仲間からメッセージ、担当職員からはメッセージとプレゼントをお渡しします。各月の実行委員が進行し、最後にハッピーバースデーの歌を皆で歌い、時には仲間のキーボードやハーモニカなども加わり、とても賑やかで楽しい時間です。

##### ○相談箱

自治会には相談箱があります。困りごとのある仲間、悩んでいる仲間が相談内容を記入し、相談箱へ投入。毎週役員がチェックし、その後全体で話し合いを行います。相談が全くない時期もありましたが、「困った時、悩んでいる時はどうしていますか？」と話し合いをし、相談箱があることをみんなで確認してきました。

その結果、年2、3件だった相談が今では10件以上に増え、活動が定着しました。一番多かったのが、仲間同士のトラブル（悪口を言われた、ロッカーでのトラブル）、二番目は仕事に関する事（もっと作業しやすいようにしたい、作業開始時間が遅い）でした。

##### ○役員選挙

今年度4月、二年に一度の自治会役員選挙がありました。2月末まで緊急事態宣言が出され、様々な行事が延期となった中での活動でした。

集団の集まりや話し合いが制限される中、感染予防や3密防止の対策を行い、仲間や職員で試行錯誤しながら取り組みました。

役員選挙の前に選挙管理委員会を立ち上げ、委員を選出。委員が選挙告示や選挙活動について仲間全体に説明し、立候補受付当日には4枠に8名が立候補されました。今回初めて立候補した2名は「みんなと楽しいことがしたい」という理由からでした。役員を何度も経験していても「もし役員になれなかったら…」と悩んだ末、立候補された方もありましたが、最後は「役員になれなくても違うことで頑張ろう」と折り合いをつける姿がありました。

立候補者は選挙管理委員と一緒に公約ポスターを作成。「作業所ルールを守り、笑顔で仕事ができるように」「現場や作業中、事故やケガがないよう安全第一で」「みんなで見える作業所に」「みんなと仲良く」「連合会で頑張っていきたい」とそれぞれ思いが出されました。立候補

## ～自治会活動を中心に～

者が施設内を回り、声を出して行う選挙活動も、感染対策の為に今回はとりやめ。公約ポスターを撮影し、休憩中にTVのモニターに映像を流しました。

公開討論会も感染対策の為に会場を工場（作業現場）に変更して実施。初めてでしたが、立候補者は2階で演説し、他の仲間は1階で聞くという形で行いました。選挙管理委員が決めた演説内容は、「役員になったら何をがんばりたいか」「みんなが仲良くするために自分だったらどうするか」「他の仲間が暴言や暴力をしていたらどうするか」の3つ。それぞれの仲間が自分の思いを、自分の言葉で皆に伝えました。

いよいよ選挙投票日。朝からそわそわし、落ち着かない立候補者の仲間たち。感染対策で投票は別室で一人ずつ記入し、開票は皆の前では行わず、選挙管理委員が開票し、集計。速報で作業前の時間を使って当選者を発表しました。喜ぶ仲間、落ち込む仲間、怒ってしまった仲間、落選しても「他のことで頑張

る！」と気持ちを切り替える仲間と、様々な仲間の姿がありました。

今年度は役員経験がある二人と初めて立候補した二人の当選となり、今後の展開がとても楽しみな役員構成になりました。役員集団の中で共に成長していつてもらえればと思います。

コロナ対策で様々な活動が中止・延期となり、人と人の関わりを断つことばかりです。その中でも仲間の意見や要求を大事にしなが、ひとり一人に寄り添って自治会活動を支援していきたいと思います。

自治会担当職員 秋野 麻未



初めて取り組んだ「ベースアップ交渉」の要求が実現した喜びも報告！

ワークセンターフレンズ星崎

4月16日「ゆいの会（自治会の名称）総会」は、コロナウイルス感染予防対策として、初めて各現場と自治会役員がいる食堂をモニターでつなぎ、リモートで行いました。台本の読み合わせなど準備をしてきた役員も、緊張した表情でパソコンの前に座りました。

報告内容は、「活動報告」「会計報告」「規約変更」「質疑応答」の4項目。「活動報告」では、昨年度取り組んだ自治会活動や行事などについて、写真も交えながらふりかえりました。例年の日帰り旅行に代わって、秋に「お楽しみ会」を行ったこと、10月の名古屋市行政懇談会では、役員がスーツを着用し、気持ちを引き締めて参加したことなどを報告しました。

また初めて「ベースアップ交渉」を行い、2回に及ぶ交渉を経て要求が実現したことも報告しました。モニターを通してではありましたが、所長から回答をもらった時の嬉しさ

を思い出し、再び、全員で喜びをかち合うことができました。

要求が実現した背景には、役員が中心となって取り組んできた学習会に加え、リサイクルみなみ作業所のポータス交渉に向けた取り組みを見学し、交渉の方法などを教えていただいたことも大きかったです。他の事業所の取り組みから学ぶこと、役員同士の交流を深めていくことの大切さを改めて感じました。

今後も交流を続ける中で、役員自身の視野が広がり、発信力・意思表示の機会が増えていくことを期待したいと思います。

自治会担当職員 坂部 裕美



# 私たち取り組んでいます！

## 「みのりの新しい風」 みのり共同作業所

誕生会や夏のボーナス交渉等、様々な取り組みで中心になって進めていく「仲間の会」。さる4月27日、2年に一度の役員選挙が行われました。

今回は定数6名の枠に、9名の仲間たちが立候補するという激戦が繰り広げられました。「役員がんばります！」や「言葉の暴力をなくします！」等、思い思いの選挙公約を書き込んだポスターを貼りだすところから選挙活動は始まりました。ハチマキとタスキをつけ、他現場にも足を運び、握手を求めたりする姿も見られました。

そして立会演説会当日。突然不安に感じたのか「辞退する」と言い出す仲間が出るハプニングも…。それでもその仲間も含め立候補した9名は、それぞれの想いを仲間たちの前でしっかりと訴えることができました。これまではその場で行っていた

投票・開票も、今回は集まることを控え、各現場での投票としました。選挙管理委員さんが当選者を全館放送で紹介し、ポスターには仲間で作った真っ赤な花を飾りました。

長く役員を続けている仲間、そして今回初めて役員になった仲間も「みのりを良くしていく」と情熱を持った方々ばかりで、頼もしい顔ぶれの役員メンバーとなりました。今後の活躍が楽しみです。 丹羽成利



## 素敵な笑顔であふれた つゆはし歓迎会！

### つゆはし作業所



今年度作業所では、村井友美さん（仲間）と池野真子さん（職員）を新たなメンバーとして迎えました。そのお二人をぜひ「これから一緒に働く仲間・職員として歓迎したい」「お祝いしたい」「楽しく盛り上げたい」という仲間の思いを胸に準備を進めました。

5月25日に開催された歓迎会の第一弾は、「なかよし班」と「まねねこ班」の各現場で行うプチ歓迎会。始まると同時に拍手で迎えられ、仲間からのお祝いの言葉がたくさん詰まった手紙と、折り紙で折ったくす玉や鶴などの

プレゼントをお渡ししました。仲間が村井さんに握手を求めて手を差し出す場面もあり、「つゆはし」の仲間として迎え入れたように感じました。その握手で恥ずかしそうに、嬉しそうにされている村井さんの表情が素敵でした。

第二弾は「ほかほか班」を中心とした食堂で行う歓迎会。折り紙で作った花や輪っかや飾りつけした会場で始まりました。お祝いの言葉を班のムードメーカーである小貝さんが「よろしくお願ひします！」とお辞儀をしながら元気よく伝えられ、会場全体が笑顔であふれました。また、花束とプレゼントを渡すと、さらに村井さんや池野さんの表情も明るくなり、嬉しそうでした。

コロナ禍で制限されることはありましたが、作業所全体で一緒になって楽しむこと、お祝いすることができ、心が温かくなる会になりました。村井さん、池野さん、これから一緒に「つゆはし」を盛り上げていきましょう！

岩田尚子

# 高齢期の 障害者家族の生活問題と社会的支援

## 第7回

### 「私」を語り始めた母親たち

7月12日(月)に拙著『障害者家族の老いる権利』(全障研出版)の出版記念トークイベントが開催されました。本書の執筆にあたっては、ゆたか福祉会の関係者の方には、アンケートや聞き取りという形で大変お世話になり、心より感謝申し上げます。また、トークイベントにもこの会報を受け取っていただいている方を始め、愛知からたくさんご参加いただき、本当に感謝しております。(そして、ゆたか福祉会にもたくさん本を買っていただきました。ありがとうございます。)

当日は、30代の障害がある息子さんの母であり、「全国障害児者の暮らしの場を考える会」の役員でもある播本裕子さんとの対談をさせていただきました。会場が小さな会議室であったせいか、時折、二人だけのプライベートな話をしているような感覚になる瞬間もあり、播本さんのお話に、引き込まれていきました。子どもさんのケアの大変さや将来の不安についてはもちろんのこと、「きょうだい児」である兄への思いや、働けなかったことへの焦り、参観日

には子どもの担任に働く女性としてのうらやましさを抱いたこと、そういうことにくさん「傷つけられた」という言葉には胸が締め付けられるような思いがしました。

これまで多くの障害のある子どもをケアする母親の話を聴かせていただく機会があったのですが、いつも私自身「同じ女性として、母親として…自分だったらどうするだろう。何を思うだろう」と出口の見えないトンネルに入り込んだ気分になります。

#### 楽しかった思い出の裏側に

『全障研しんぶん』の8月号に本書の紹介を、播本さんと同じく「全国障害児者の暮らしの場を考える会」の役員を務めておられる新井たかねさんが寄せてくださいました。そこには、「…著者が障害のある人・その家族との楽しい経験も共有してこれら、心から寄り添ってこられたからこそ、そして今を受けとめ、課題を引き寄せて考えられるからこそ、その調査の視点、分析

に説得力があり、私たち家族を励ましてくれる稀有な著書であると思います」と書いていただき、素直に嬉しかったです。その文章を読ませていただき、私は、「そうそう、ご家族の方々ととても楽しい思い出をたくさん共有させていただいてきたんだ」ということを改めて実感しました。

とても貧乏だった学生・院生時代、ちょっと良いお店に連れて行ってくださったたり、ちょっと変わった？美味しいものを食べさせてくれたのはいつもご家族でした(ご自宅に食事にお呼ばれたときは、次の日の分の食事をいただくためにタッパーを持参するような図々しい学生でした。笑って受け入れてくださったご家族に感謝)。家族旅行や作業所旅行にも、ボランティア？という形で同行させていただき、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

でも楽しい旅行中の布団の中で、子どもさんが障害を負ったときに周りの方から言われたひどい言葉に傷ついたこと、帰途の電車の中で、自宅で待っている夫との関係がしんどくなっていることなどをポロッと





佛教大学  
田中 智子



話していただいたときには、何も言うことはできず、ただ一緒に涙することしかできませんでした。いつも明るく楽しそうな笑顔の裏側で、母親たちが積み重ねてきた我慢の重みに耐えられなくなってしまふ私もいました。

### 30年越しのバトンを受け継いで

若かりし頃（今も？）ちょっと尖っていた私は、大学院に入って、（少し過激な？）ジェンダー思想を読み漁っていました。本に書かれていた女性が受けてきた数々の差別、その中で女性たちが何を経験してきたのか、どのように闘って権利を勝ち取ってきたのかということが、自分の目の前にいる障害者のケアラーである女性たちから現実の話として語られたのです。私の中で、自分の生きる道、やるべきことが見えた瞬間でした。

今回の播本さんのお話は、多くの方々に共感を持って受けとめていただけたようです。それは、これまで「子どものため」には声を大にして運動してきた女性たちが、「自分のこと」を語って良いのだというということを実感されたからだと思います。播本さんからも、「初めて堂々と働

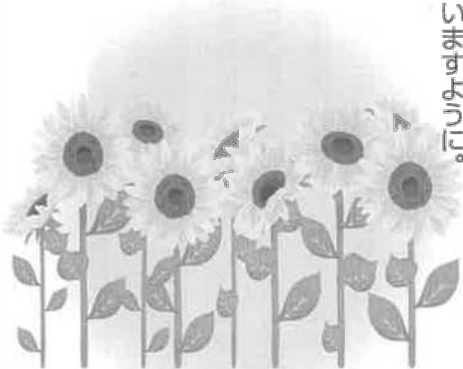
けなかった悔しさや自らの人生の大切さを口にできたような気がします」というメッセージを終了後、送っていただきました。

しかし、今の時代に、私が「親自身の人生を」ということを「老いる権利」ということと言えるのは、これまで、口にせないながらもその願いを手放さなかった母親たちの存在があったからです。前述の新井たかねさんは、記事の中で、「34年前、所属していたみぬま福祉会の広報紙「輝け太陽」に、その思いを書いたことがあります。この時、実践・運動の中心を担っていた理事長に「母の気持ちも良くわかるが、もう少し待ってくれないか」と言われたことが思い出されます。「在宅も進路」といわれ障害の重い人たちの進路先がなく、「だったら、自分たちで作るしかない」と、毎年無認可作業所を作っていた時期でしたから」と書かれていました。

30年以上、自分の思いに蓋をしながらも、障害者運動の先頭に立ち続けてこられた新井さんや他の母親たちには心からの敬意と感謝を述べたいと思います。そのような女性たちが積み上げてきてくれた地点から、私は出発することができているのです。私も次の世代の女性たちに、少しでも積み上げた社会を手渡せたらと願わずにはいられません。

播本さんは、今回の企画を振り返ってSNSに、「障害のある子の親になってからずっと思い続けていた矛盾を口にできるようになって、これからの人生もまんざらではないんだという勇気が湧いてきます」と書いてくださいました。「私」を語ることは「希望」を語ることなのだと思います。本を出すということは、これまでやってきたことの一区切りのように思ってきましたが、そうではなく改めて原点に立ち返り、今の自分の立ち位置を確認することだったのだと気づきました。自分を含む女性やケアラーの矛盾に気づくことは、しんどいことではあります。仲間を得て、語り合うことで、これらに向けての希望を見出すことができます。本をつくる過程で、あるいは出版したことで、そういうことを経験できて、とても幸せでした。

これまでの出会いに感謝、これからの出会いに期待。皆さん、暑い夏ですが、ご自愛くださいますように。



隣家火事を通して

改めて地域との

つながりの大事さを痛感

名古屋高齢事業本部長 岡山加代子

はじめに

今回、隣接する建築会社作業員寮からの火災に伴い、みのり共同作業所、ケアサポート宝南の建物への延焼被害がありました。今回の出来事を報告する中で共有し、教訓化をしていきたいと思っています。



炎に包まれる作業員寮 右の建物がケアサポート宝南

火事の発生と初動対応

2021年5月7日午前3時頃、東側の建物から「カーン」という音とともに爆発と出火があり、当日夜勤のパート職員1人が、初動対応となりました。グループホーム宝南の家所長への電話連絡と同時に119番へ連絡し、その後、近所に住む職員にも連絡し応援要請を行いながら、9人の利用者さんの避難誘導を開始しました。所長から本部長への連絡があり、数分後には近隣に住まわっている理事長からも連絡があり、現場へ向かいました。その時点ですでに夜勤以外に所長も含め、3名の職員が現場に到着をしていました。

出火当時は全員入眠中でしたが、近所に住む職員が一番に駆けつけ避難活動に協力し、数分後に救急隊の介入もあり、北側のくつ塚公園に無事に避難することができました。

消防署員とともに  
行った施設確認

5時頃には鎮火し、消防署員と一緒に施設内の確認を行い、ライフラインの水、電気の使用をチェックしました。東側の1階から2階にかけて被害が酷く、ディサービスが行えるか心配な状態でしたが、当日の入浴以外は事業が行えると判断し、事業は予定通り実施しました。

振り返って

出火元の建物とはほとんど距離がなく隣接していた為、もっと大きな被害も想定されるような火事でした。給湯機用の灯油のタンクが火元から離れていたこと、何と言っても建物が鉄筋コンクリートであったことで、人的被害もなく建物被害だけに抑えられたといえます。木造であれば延焼し、更に被害は甚大であったと思われます。

この地域は、ゆたか福祉会2番目の施設、みのり共同作業所が50年近く活動をしている地域で、町内の資源回収は現在も続いています。更に地元宝南消防団の協力を得て年2回、火事や自然災害に対する訓練も実施してきました。今回の火災では、近所に住む職員の活躍も大きいものでしたが、当日は消防署が駆け付けた数分後には、町内会長さんが避難誘導の協力を来て下さったり、寒い公園で寝ることやトイレに行くこともできないなか、励ましの声や毛布を利用者さんに掛けて下さったり、本当にありがたかったです。

日頃の地域との

関係づくり、また防災訓練などを地域の方々と共同で行ってきたことの大切さを改めて痛感した出来事でした。



延焼被害を受けた建物  
左がみのり共同作業所 右がケアサポート宝南



# 障害者の「親なき後」問題と成年後見制度

第8回

## 親が元気あるうちに準備すること、後見申し立てのタイミング

### ◆はじめに

昨今、障害者支援の場では、「8050問題」や「老（親）老（子）介護」問題がクローズアップされています。この問題の根底には、どのタイミングで、「子」である障害者の身の回りの世話について、他人に引継ぎ、「親」も支援を受けつつ、「子」を見守りながら、自分のエンディングに臨むのかということへのサポートが具体化できていないことだと思えます。今回は、成年後見制度に関連し、親が元気あるうちに準備しておくこと、それに取り組むきっかけについて触れていきたいと思っています。

### 1 親が元気な時とは

親である自分が、**老い**を感じた時、それが元気に不安を感じた時で、**親亡き後**に、何をしておけばよいのかを**考え始める**スタートだと思えます。もやいがサポートしている方でも、親に認知症状が出たため、**子どもに成年後見制度を利用し始めた**という方々もみえます。そ

	内 容
遺言書の作成	親が遺産の案分を文書として残すもの
成年後見制度の利用	判断能力の不十分な方を保護するために本人の行為を制限し、その代わりに法律行為をする人を決め、その人が一定の法律行為をする制度
民事信託の利用	親が存命中に信託契約を結ぶことで、親の資産を必要な時に必要な分だけ給付できる仕組み

の場合、親御さんへの福祉支援、障害者本人への支援や準備を同時並行で進めなければなりません。では、どんなことを準備しておくのでしょうか。

### 2 親が準備しておくこと

親あるうちの準備として次のような提案が考えられます。

代表的なものは上の三つが挙げられますが、それぞれに長短があります。他にもエンディングノートを作成して家族への引継ぎを確実なものにしておくということも有効だと思われれます。

### ◆おわりに

NPO法人成年後見もやいでは、**親亡き後**の問題などについて、ご相談に応じています。成年後見制度申立をどのタイミングで、どのように行っていくのが良いのかどうかということや他にも前述したような制度をどのように利用したら障害者本人にとってよいのかといったアドバイスもさせていただきます。お気軽にお声かけください。

成年後見もやい事務局

一般寄附(6・7月)

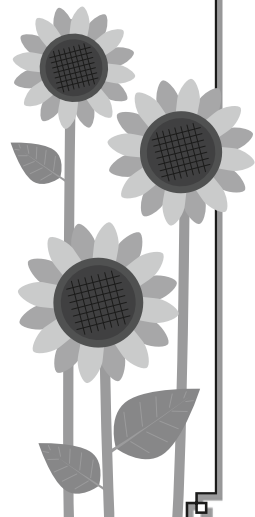
賛助会員新規加入者・更新者のご芳名一覧

数納 幸子  
岩田 直子  
清水 晶子  
鏡味千代子  
金桶貴美代  
岩山 芳美  
伊藤 澄子  
石黒運送株式会社

高橋 利浩  
堀 鉦三  
堀江まる子  
柳川 将義  
清水 悦子  
飯田 輝男  
村井智恵子  
柳川オリエ  
神谷 恵子  
横井 雅幸  
吉野多賀子  
岩山 芳美  
石元 憲明  
戸塚やよい  
中蘭 加奈  
清水 晶子  
今西 正次  
駒村 忠俊  
野間 聖子  
生駒 悦子  
杉浦 達男  
浅海 正義  
杉浦登志子  
山田 国明  
近藤産興(株)  
内田紙店  
藤田 有紀  
市川 恵子  
岡田多津子  
石川さち子  
らいぶ 施設長 井出信男  
杉浦 博  
毛利 登  
中武 繁治  
鈴木 やす  
港北幼稚園  
東洋病院  
大橋昭人  
神田 清一  
佐藤 博宣  
水谷 映子  
小田切龍三  
日鉄物産株式会社  
梶田まゆみ  
加藤 信子  
池田 栄一  
平國 哲  
おもちや図書館びつころ  
有坪井電機 代表取締役  
坪井賢三  
飯田 章代  
田畑 博  
片山美恵子  
中村美津江  
高森 裕司  
御崎コンベヤー(株)  
浅野 清高  
山崎 辰雄  
及川 博子  
横井 脩  
社会福祉法人 たからばこ  
中日印章印刷(株) 林克己  
ナグラサービス株式会社  
桜軽金属工業(株)  
石黒運送(株)  
飯田 章代  
塚本 道夫  
尾関 啓子  
太田 成誓  
高村美津江  
御崎コンベヤー(株)  
数納 幸子  
稲垣 雅代  
千葉 恵子  
近藤左千夫  
御崎コンベヤー(株)  
山田 清文  
近藤 直子  
浅田 悦男  
鏡味千代子  
社会福祉法人 あずま福祉会  
糠谷 彰洋  
今井 信彦  
石井 義久  
高橋香与子  
おぞら作業所  
井出 由紀  
幸村 隆夫  
川上 雅也  
前田 勝彦  
設楽測量設計(株) 加藤博俊  
金桶貴美代  
住友 陽子  
江坂 文恵  
藤田 秋雄  
株式会社共同印刷  
ダイキ米穀店 鈴木直人  
鬼頭 宏  
浅野実千代  
鈴木 隆介  
藤田 明美



社会福祉法人 たからばこ  
中日印章印刷(株) 林克己  
ナグラサービス株式会社  
桜軽金属工業(株)  
石黒運送(株)  
内田紙店  
株式会社丸菱  
大橋昭人事務所 大橋昭人  
日鉄物産株式会社  
※利用者・保護者・職員の方から  
からも多くのご寄附をいただき  
ました。



(6月23日～7月16日手続き分) 順不同 敬称略



**日誌** **6月**

- 4日(金) 安全運転講習
- 8日(火) 安全運転講習
- 11日(金) 新所長研修
- 12日(土) 評議員選任解任委員会/  
評議員会/理事会
- 14日(月) 事業運営推進会議
- 23日(水) 所長会議
- 30日(水) 新副所長研修




『障害者家族の老いる権利』  
著者 田中智子

ぜひ、お読みください



**寄贈** 株式会社アトコ 様

職員の安全運転講習で協力を頂いている株式会社アトコ（旧クラウン自動車学校）様より、多数の商品券の寄贈を受けました。東海市の学校閉鎖にあたり、活用先を探していたなかでの寄贈となりました。ありがとうございました。



**表紙の作者紹介**

**「僕と大好きな人たち」**  
あかつき共同作業所 山中 五美さん

幼少期から絵を描くことが大好きだった山中さん。今回「表紙に絵を載せてもらいたい」と思い、実現に向けて頑張りました。

左上の女性はホームの世話人さん。右上の男性はホームで一緒に生活するあかつきの仲間です。そして帽子・マスク・手袋をして、パックにイチゴを詰めているのがご本人。今年4月に作業所で行った「出張イチゴ狩り」のときの様子を、まるで作業をしているかのような絵になっています（笑）。久しぶりの行事で楽しかった思い出を絵にしました。

作業所でも昼休みに窓から外を眺め、風景を描いたりしています。本部に伺ったときには、「僕の絵をお願いします！」と勇気を出して伝えることができました。

**広報・463号**

2021年8月号(2021年8月10日発行)  
定価1部100円  
法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会  
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協会会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協会会費 = 年間1口6,000円、  
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- 三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- 中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

# その人らしく働く 暮らす

## Vol.96

### 仲間

#### 「動きだしたやりたい気持ち 自治会役員に立候補」



平出典子さん

一般就労の経験もある平出さんは2001年4月、40代半ばで

サイフル港作業所と出

会い、高い判断力でピン選別作業に貢献されました。体力的にはきつい仕事でしたが、同じように就労経験のある仲間との「関わりが楽しい」と話されていました。

そんな平出さんでしたが、年

を重ねるにつれて体力の低下もみられ、加齢化にも対応する作業所建設を見据えた新グループのメンバーになりました。本音は「工賃の高い作業がいい」と思っていたと思います。

それでも新作業所（生活介護）の建設が進むにつれ、徐々に期待が膨らんでいき

ました。  
2019年7月、「みらいの」の開所と同時に異動されて丸2年。現在は約0.1g、直径約1mmの資材（ブラシ）



丁寧に字を書いとるよ

を、計量器のデジタル画面を見ながら、設定重量に揃える作業をしています。

昨年12月、自治会役員選挙に

自ら立候補し当選され、副会長・書記・会計を兼任されることになりました。暗算で会費の計算もできる平出さんのやりたい気持ち動きだしました。

自己肯定感を大事に、ホームでの暮らしと「70歳まで働きたい」「旅行や喫茶店に行きたい」という希望が叶えられるよう、伴走していきたいと思っています。

大峯 穂乃海

### 職員

#### 「関わっている皆さんの 思いや願いを大切に」



石田和加奈

正規職員として入職してから約10年になります。グループホーム、相談支援事業所ゆたか希望の家

です。グループホーム、相談支援での仕事を経験し、

私生活では結婚や出産、育児と変化がありました。今は、2人の子供を育てています。

現在は相談支援専門員として、法人内外の障害児・者の方を対象に、地域で生活していく中での困りごとや悩みごとに対して福祉サービスをご紹介したり、定期的

にモニタリングでお話を伺ったり、見学同行も行ったりしています。

子どもが急遽、体調を崩してしまい、訪問出来ないことや仕事が滞ってしまうこともあり、もどかしく感じることもあります。事情を知っている方が「うちも小さいときあったからね」と言ってくれ

たり、職場でもフォローしていただいたりしています。

また、法人内の他の相談支援事業所に、同期や子育て中の職員が

いることも、自身の大きな励みとなっています。

グループホームは直接支援、相談支援は間接支援の現場になるので、異動することで、仕事の立ち位置や役割のちがいに気づく機会にもなりました。しかし、関わるのは、「人対人」なので、関わる方の希望や思い、価値観を大切にしながら接していくことは「どの現場でも同じことなのか」と思っています。

これからも、関わっている方の思いや願いを大切にしながら、「地域の中で安心して生活を送りたい」との思いに寄り添った支援を、職場全体のチーム力でサポートしていきたいと考えています。



対話を大切に